

浜口陽三《1/4のレモン》1976年
武蔵野市立吉祥寺美術館蔵



はま 濱口陽三(明治42・1909年～平成12・2000年)はパリやサンフランシスコで活躍した、世界的に高い評価を受ける銅版画家です。銅版画の技法のひとつである「メゾチント」はフランスではマニエル・ノワール(黒の技法)と呼ばれます。その名は、はじめに版全体にインクがのるように処置(“まくれ”をつくる)し、描画する(“まくれ”を削り、インクがのらないようにする)、という制作工程に由来します。



浜口陽三《ジブシー》1954年 武蔵野市立吉祥寺美術館蔵

カラーメゾチントの魅惑

佐野美術館創立50周年・三島市制75周年 記念
銅版画家・浜口陽三
やわらかな闇の中で
2016.4.23[土]—6.5[日]

メゾチントは闇(黒)を生み出すことから始まる、とも言えるかもしれません。

浜口はモノクロームが主流であったメゾチントの世界に黄・赤・青の色を用い、独自の世界を切り開きました。暗闇に浮かび上がる真っ赤なさくらんぼの鮮やかな色彩は、見る者に強い印象を残します。そして黒だけでなく複数の色がまじり合うことで、柔らかくそこに在るものを受け入れる浜口独特の「闇」の表現が生まれたのです。

実は浜口は伊豆ゆかりの作家でもあります。第二次世界大戦を受けパリより日本に戻ると、フランス語力をかわれ、当

時日本が侵攻していたフランス領インドシナへの調査団に通訳として加わりますが、同地でマラリアに罹ってしまいます。終戦を迎え帰国し、療養の為に訪れたのが伊豆半島の蓮台寺温泉でした。浜口は同地に2年程滞在し、飾らない人柄で地元の人々と親しく交流し、その後再びパリへ渡ってからも度々同地を訪れたといいます。

本展では、尋常小学校時代のスケッチや、表現を模索していた時代の油彩画、伊豆の人々との交流などもご紹介しながら、カラーメゾチントの代表作を中心にその生涯を振り返ります。

(学芸グループ 志田理子)



浜口陽三《西瓜》1981年 武蔵野市立吉祥寺美術館蔵

夕暮れと朝焼けを極めた画家

佐野美術館創立50周年・三島市制75周年 記念
日本近代洋画の巨匠 和田英作展
こころの情を描く

2016.6.11[土]—8.7[日]

和田英作《三保富士》昭和28年(1953)
小杉放菴記念日光美術館蔵



わ 田英作(明治7・1874年～昭和34・1959年)の代表作《渡頭の夕暮》。学校の教科書などで見たことのある人も多いと思います。本作は東京美術学校(現東京藝術大学)の卒業制作として描かれました。農作業を終え、多摩川下流の矢口の渡しで帰りの船を待つ家族。川面は夕日を映じて赤から紫へ染まり、向こう岸の森林は深い影を落としています。日が傾き沈んでいくまでの微妙な色の変化を見事に捉えています。

和田の自然の色調を見分ける鋭敏な感覚は、富士山の制作において最大限に発揮されました。和田は「富士薔薇太郎」と呼ばれるほど、富士山と薔薇を数多く描きましたが、とくに朝焼けの富士山を得意としました。冬の寒さ厳しい夜に明けぬ内から宿を出て、朝日が山頂の白雪に反射してまばゆく

輝く瞬間を描き出しました。時季を逃しても、毎年訪れ何年も掛けて完成させました。和田は富士山への余りある愛着から、昭和26年(1951)から34年に84歳で亡くなるまで静岡県清水市(現静岡市清水区)の三保に居を構えました。《三保富士》をはじめとするこの頃の作品は、様々な姿や色の富士山に出会えることで、画家として日々新たな気持ちで向き合えることのできる喜びに溢れています。

和田は東京美術学校校長を務め、文化勲章を受章するなど画壇の頂点を極めました。常に基本の技術に立ち返り、一つ一つを丹念に取り組む態度を生涯貫きました。修業中の初期作から絶筆の富士山まで約90点により、変幻自在な自然の彩りに魅せられ描き続けた生涯を、ゆかりの静岡の地でご覧いただきたいと思います。

(学芸グループ主任 河内えり子)



和田英作《渡頭の夕暮》
明治30年(1897)
東京藝術大学蔵

ミュージアムショップ

ミューゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

さくらんぼ柄ハンカチ 800円(税込)

ポストカード 各150円(税込)

カタログ ミューゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 800円(税込)

一筆箋 《22のさくらんぼ》 350円(税込)

グリーティングカード 《アスバラガス》 200円(税込)

シール《西瓜》 200円(税込)

トートバッグ《2匹の蝶》 1,100円(税込)

林工藝 かみのかびん【延筒】 1,080円(税込) 2013年度グッドデザイン賞受賞。ペットボトルなどの容器にかぶせて和紙の花瓶ができあがり。提灯のように折りたたみもできる伸縮するカバーです。

のし袋 各540円(税込) 紐綴じが可愛い、袱紗タイプののし袋です。

プレゼントコーナー

※抽選で3名様に「**ア**」マークの品を差し上げます。「プレゼントコーナー応募」、ご住所、お名前、電話番号、隆泉の感想と隆泉に掲載したい一言コメントを明記の上、佐野美術館「隆泉」係まで郵便かFaxでお送りください。一言コメントのテーマは「わたしの人生の節目」です。しめきり：2016年5月15日(消印有効)

- ・当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。
- ・いただいた個人情報はプレゼントの発送以外に使用いたしません。

※「銅版画家・浜口陽三」展会期中(4/23～6/5)のみの販売です。